◇御嶽山（おんだけさん）

御嶽山は標高 568 mの山ですが、山頂からの眺めはすばらしく、豊後大野を一望することができます。山頂の岩は、太平洋の海底に堆積したプランクトンが固まったチャートと呼ばれる岩石で、プレートの動きによって日本列島に移動し、押しつけられ隆起したものです。

また国の重要無形民俗文化財である御嶽神楽の発祥の地でもあります。



御嶽山の山頂

◇白山渓谷（はくさんけいこく）

白山渓谷は、日本名水百選に選ばれた清流で、夏はホタルが乱舞することでも知られています。川沿いには阿蘇溶結凝灰岩の柱状節理が見られ、変化にとんだ景観となっています。また途中には、阿蘇火砕流によって水没したとされる稲積水中鍾乳洞があります。



白山渓谷

◇菅尾磨崖仏

菅尾磨崖仏は、平安時代後期に作られた 5 体の磨崖仏で、約 9 万年前の阿蘇火砕流の溶結凝灰岩に彫られています。京都や奈良の木造の仏像と比べても遜色のない、非常に精緻な作りとなっていることから、国の重要文化財に指定されています。豊後大野の数多くの磨崖仏の中でも代表的なものです。



菅尾磨崖仏 5体のうちの3体

◇宮迫東・西石仏

東西 2 か所に彫られた磨崖仏で、いずれも阿蘇火砕流の溶結凝灰岩に彫られており、平安時代後期の作と推定されています。この地域には源平の合戦で活躍した緒方三郎惟栄（これよし）の荘園があったと言われており、磨崖仏の造営には緒方三郎惟栄が大きく関わっていたことが推測されます。



宮迫東石仏



宮迫西石仏

◇柴北熊野社

社殿の裏の岩壁は、約９万年前の阿蘇火砕流の溶結凝灰岩で、大きく「熊野宮」の文字が彫られています。崖の下からは地下水がこんこんと湧き出し、磨崖仏と同様にこの場所が神聖な場所として信仰の対象になったことがうかがえます。



社殿の後ろに見える「熊野宮」

◇普光寺磨崖仏

普光寺の境内に彫られた磨崖仏は、台座を含めた高さが約 11m で、国東半島の熊野磨崖仏とともに日本最大級の磨崖仏です。豊後大野の多くの磨崖仏が約９万年前の阿蘇火山の４回目の火砕流が固まった溶結凝灰岩に彫られているのに対し、この磨崖仏は約 12 万年前の３回目の火砕流の溶結凝灰岩に彫られています。



あじさいの花と普光寺磨崖仏

◇大迫磨崖仏

お面をつけたような一種異様な顔つきの磨崖仏は、岩の表面に麻などの繊維を混ぜた粘土を貼り付けて作られたものです。この岩は約 60 万年前に、今の由布岳あたりにあった火山から流れてきた火砕流が固まったもので、非常にもろいため、このような姿になったと考えられます。



大迫磨崖仏

◇犬飼石仏

犬飼石仏は、約９万年前の阿蘇火砕流の溶結凝灰岩に彫られた磨崖仏で、像の形式から鎌倉時代に作られたと推定されています。不動明王でありながら温和な顔つきが印象的です。歌人の与謝野晶子がこの地を訪れ、詠んだ短歌の歌碑があります。



犬飼石仏

◇出会橋（であいばし）・轟橋（とどろばし）

轟橋は、昭和９（1934）年に森林鉄道の橋として架けられた２連のアーチ式石橋で、広いほうの径間（アーチの幅）が 32.1m と日本一を誇ります。一方、出会橋は、大正 13（1924）年に架けられ、径間が 29.3m と日本第二位です。下を流れる奥岳川の両岸には、阿蘇火砕流の溶結凝灰岩からなる見事な柱状節理が見られます。



下流側から見た出会橋（手前）・轟橋（奥）

◇辻河原石風呂（つじがわらいしぶろ）

石風呂とは岩穴の中に蒸気を充満させて入浴する蒸し風呂の一種です。約 12 万年前の阿蘇火山の 3 回目の火砕流の溶結凝灰岩に、崖の形をうまく利用して造られています。崖には阿弥陀如来を表す梵字（ぼんじ）が彫られており、仏教に関わる施設であったことがうかがえます。



今も活用されている辻河原の石風呂

◇神角寺（じんかくじ）

神角寺は、千年以上の歴史を持つ古刹です。約 1,500 万年前の溶結凝灰岩の柱状節理からなる尾根上に立地しているため、大変眺めがよく、そのためしばしば戦いの拠点としても利用されてきました。境内にはたくさんのシャクナゲが植えられており、シーズンには多くの見物客でにぎわいます。



シャクナゲの花と神角寺本堂

◇犬飼港跡（いぬかいみなとあと）

犬飼港は、江戸時代の初めごろに造られた川港です。当時、大野川の上流に領地のあった岡藩は、下流の三重町付近が臼杵藩の領地であったため、この犬飼までは陸路を移動し、ここから船で大分方面に向かっていました。河床には切り立った硬い地層が露出していたため、溶結凝灰岩の切り石を平らに敷き詰めています。



犬飼港跡に残る石畳

◇虹澗橋（こうかんきょう）

谷を渡る虹と名付けられた橋で、江戸時代の後期、文政 7（1824）年に完成しました。当時としては日本最大の石橋で、臼杵藩であった三重の町と臼杵城下を結ぶ街道の難所を克服するため、地元の豪商が資金を出し合って建造しました。堅牢かつ美しい石橋で、国の重要文化財に指定されています。



谷を渡る虹のような虹澗橋

◇蝙蝠の滝

大野川本流にかかる高さ約 10m の滝で、こうもりが翼を広げているように見えることから名づけられたと言われています。明治時代、大野川に舟を通して物資を輸送するために、この滝を迂回する舟路と、舟を上げ下げするすべり台のような樋が造られました。